



しかったという。

昇吉師匠は現在、ユニバーサルデザイン落語絵本の制作に取り組んでいる。ユニバーサルデザインとは、障害の有無にかかわらず、多くの人々が利用できる製品のことをいう。

昨年4月、昇吉師匠が代表理事を務める落語ユニバーサルデザイン化推進協会が制作した落語絵本「まんじゅうこわい」が、合同出版から出版された。

ユニバーサルデザイン絵本の特徴は、点字が併記されていることと、触ってわかる凸線や凸点で図や絵などの「触図」が掲載されているところにある。

だが落語絵本「まんじゅうこわい」はそれ

だけにとどまらない。

巻末に3Dプリンターのデータを付記し、落語に登場するモノ（例えば、セミ、カラス、まんじゅうなど）の「立体触図」を絵の上に載せ、「立体触図」に触れることで、視覚障害のある子どもたちも立体的に楽しめるようになった。

「立体触図」のデータ作成は、東京・新宿区の海城中学高等学校模写部の協力を得て進められた。盲学校や点字図書館には3Dプリンターがあるところが多く、データがあれば3Dプリンターで「立体触図」を造形することができると話す。

落語ユニバーサルデザイン化推進協会が

は、落語絵本「まんじゅうこわい」を全国約150か所の盲学校や点字図書館へ寄贈した。

昇吉師匠の次なる夢は、絵本を届けた子どもたちに、「生の落語」を直接楽しんでもらうことだ。

《ビジネスに役立つエッセンス》

昇吉師匠は東大卒業後、平成19年に春風亭昇太郎匠に入門し、見習い、前座、二ツ目と厳しい修業時代を経て、令和3年に真打に昇進した。昇吉師匠は修業時代を振り返り、落語の稽古とビジネスには多くの共通点があると話す。

落語の稽古では「模倣する」「録音する」「ネタ帳をつける」が重要

だという。

落語で「模倣する」は、師匠の話し方を真似ることだが、ビジネスでは上司や先輩、尊敬する人物の話し方を真似ることが、自身の成長につながるという。

「録音する」については、自身のプレゼンなどを録音し、改めて聞き直すことで問題点を見出し、プレゼンの質の向上につながることもできる。

「ネタ帳をつける」については、日常的に見聞する情報の中から、ビジネスのアイデアとなるもの、取引先との間で話題となるものなど、気になった情報をメモしておくことで、さまざまなビジネス

シーンに活かすことができるという。

落語好きとして知られる著名人は数多いが、終戦直後の日本を牽引した政治家・吉田茂もその一人。選挙活動中にコートを着たままぶつきらぼうに演説をしていると、「外套（がいとう）ぐらい脱げ！」と聴衆から野次が飛んだ。

これに対して「外套を着てやるから街頭演説です」と言い返したエピソードは有名だ。聴衆は拍手喝采で応じたという。

「笑い」には緊張を緩和し、「コミュニケーションを円滑にする効果がある。落語にはビジネスに役立つエッセンスがあふれている。